開　催　実　施　要　項

１　大 会 名　　令和７年度　第４８回福岡県高等学校柔道選手権大会
　　兼　第４８回全国高等学校柔道選手権大会福岡県予選大会

２　主　　催　　福岡県柔道協会

３　共　　催　　福岡県高等学校体育連盟

４　後　　援　　スポーツ庁・福岡県教育委員会・（公財）日本武道館・（公財）講道館・朝日新聞社
　　日刊スポーツ新聞社・ＮＨＫ

５　主　　管　　福岡県高等学校体育連盟柔道専門部

６　期　　日　　（１）開会式　【団体戦】令和８年１月３１日（土）9：50～
　　【個人戦】令和８年２月　１日（日）9：50～

（２）競　技　【団体戦】令和８年１月３１日（土）入場開始　8：25～
受付　8：30～ 9：00
女子計量（団体・個 人）　8：30～ 9：10
試合開始　10：00～
男子個人戦計量　10：30～11：00
＊個人無差別級は計量を行わない。
＊詳細は別紙（タイムテーブル）参照

【個人戦】令和８年２月　１日（日）入場開始　8：25～
受付　8：30～ 9：00
試合開始　10：00～
＊詳細は別紙（タイムテーブル）参照

（３）表彰式　【団体戦】令和８年１月３１日（土）15：30～
【個人戦】令和８年２月　１日（日）16：00～

７　会　　場　　福岡武道館　（新武道館）
福岡市博多区東公園８番３号　　℡０９２－７１１－５５２８

８　競技規則　（１）試合は国際柔道連盟試合審判規定で行う。

（２）試合時間はすべて３分とする。

（３）「優勢勝ち」の判定基準

ア　男子団体試合は「有効」または「僅差」（「指導」差２）以上とする。
チームの内容が同等の場合は、代表戦を行う。代表戦の方法は「９ 競技方法」で定める。

イ　女子団体試合は「有効」または「僅差」（「指導」差２）以上とする。
チームの内容が同点・同内容の場合は、代表戦を行う。代表戦の方法は「９ 競技方法」で定める。

ウ　個人試合は「有効」または「僅差」（「指導」差２）以上とする。試合終了時に技による評価が同等の場合は、延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。なお、延長戦では「有効」以上の得点、または「指導」の数に差がついた時点で試合終了とする。

（４）個人試合において、「同時反則負け」の場合は、次の試合の出場者は延長戦（ゴールデンスコア）で決める。延長戦（ゴールデンスコア）は時間無制限とする。

9　競技方法　（1）団体試合は男女ともトーナメント戦とする。

①　トーナメント戦での勝敗の決定は次による

ア　判定基準：選手対選手それぞれの試合の勝敗は、「有効」「僅差」以上とする。

＊僅差は「指導差が２」以上とする。

イ　「技の内容」と「指導」の重み

＊【一本勝ち＝反則勝ち＞技あり＞有効＞僅差】の順とする。

（2）男子団体試合は、点取り試合とし、試合ごとのオーダー変更を認める。

①　男子トーナメント戦の勝敗の決定は次による。

ア　勝ち数の多いチームを勝ちとする。

イ　アで同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

＊ただし、一本勝ちと反則勝ちは同等とする。

ウ　イで同等の場合は、「技あり」による勝ち数の多いチームの勝ちとする。

エ　ウで同等の場合は、「有効」による勝ち数の多いチームの勝ちとする。

オ　エで同等の場合は、代表戦を行う。

代表戦は代表選手を任意に選出して行う。代表戦の「優勢勝ち」の判定基準は「技あり」または「僅差」（「指導」差２）以上とし、試合終了時に得点差がない場合、もしくは、「指導」差が１以下の場合は、ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行う。延長戦は、「技あり」以上の得点があった時点、または、「指導」の数に差が出た時点で試合終了となる。

＊代表戦で「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、勝敗を決する。延長戦で「指導」の累積により両者を同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、再度ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、勝敗を決する。

（3）女子団体試合は、点取り試合とし、試合ごとのオーダー変更は行わない。

①　女子トーナメント戦の勝敗の決定は次による。

ア　勝ち数の多いチームを勝ちとする。

イ　アで同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

＊ただし、一本勝ちと反則勝ちは同等とする。

ウ　イで同等の場合は、「技あり」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

エ　ウで同等の場合は、「有効」による勝ち数の多いチームの勝ちとする。

オ　エで同等の場合は、代表戦を行う。

代表戦は引き分け対戦の中から抽選で選び、ゴールデンスコア方式の試合を時間無制限で行う。代表戦は、「有効」以上の得点があった時点、または「指導」の数に差が出た時点で試合終了となる。なお、「引き分け」対戦がない場合は、両者「反則負け」などで勝敗がつかなかった対戦を代表戦とする。

また、両チームが選手の負傷などで２名しかおらず、「引き分け」対戦がない場合などは、代表選手をすべての対戦の中から抽選で選出して、ゴールデンスコア方式の試合を時間無制限で行う。

＊代表戦で「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、再度ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、必ず勝敗を決する。

（4）団体試合において一度退いた者の再出場は認めない。

（5）申し込み後に病気・負傷・その他やむを得ぬ事情で出場できない者が生じた場合は、受付時に専門委員会に選手変更届けを提出し、許可を得ること。（選手変更は診断書等を添付すること）

（6）個人試合は男女ともトーナメント戦とする。

10　引率・監督について

（1）引率責任者は、団体の場合は校長が認める当該校の職員とする。個人の場合は校長が認める学校の職員とする。

（2）監督・コーチ等は校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険（スポーツ安全保険等）に必ず加入することを条件とする。

11　監督の役割　（1）監督は自身の選手が大会会場に入場してから退出するまでの間、選手の行動に責任を持たなければならない。

（2）監督の行為・言動

① 試合が止まっている間（「待て」から「始め」）のみ、選手に対し指示を与えることが出来る。

② 次の行為を禁止する。

ア 試合が続行している最中に指示を出すことや試合中に立ち上がること。

イ 対戦相手や自身の選手を侮辱する言動。

（3）罰則規定

① 1回目は審判員が合議の上、口頭により「警告」を与える。

② 2回目は審判員が合議をし、大会委員長または審判長に布告の上、大会委員長または審判長の責任のもとに、その試合が終わるまで監督席から退場させる。

※次の試合（対戦校）からは、監督席に座ることはできるが、その後も改善されない場合は、大会期間中をとおして、監督席に座ることは認めない。

12　参加資格　（1）選手は、学校教育法第１条に規定する高等学校（中等教育学校後期課程を含む）に在籍する生徒であること。

（2）選手は、本連盟加盟校の生徒で、本開催要項により参加資格を得た者であること。

（3）全日本柔道連盟に登録された者（チーム）であること。

（4）年齢は、２００７年（平成１９年）４月２日以降に生まれた者とする。ただし、出場は同一競技２回までとし、同一学年での出場は１回限りとする。

（5）チームの編成は、全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒の混成は認めない。

（6）統廃合の対象となる学校については、当該校を含む、合同チームによる大会参加を認める。（統廃合完了前の 2 年間に限る）

（7）転校後６ヶ月未満の者の参加は認めない。（外国人留学生もこれに準ずる。）
ただし、一家転住等のやむを得ない事由による場合は、柔道専門委員会で調査し、高体連会長の承認があればこの限りでない。

（８）出場する選手は、あらかじめ健康診断を受け在学する学校長の承認を必要とする。

（９）その他の事項については、全国高等学校体育連盟・九州高等学校体育連盟大会開催基準要項の参加資格に準ずる。

(10) 参加資格の特例

ア　上記（１）（２）に定める生徒以外、（３）～（９）の大会参加資格を満たし、かつ､本連盟が承認した生徒については､別途に定める規定に従い大会参加を認める。

イ　上記（４）のただし書きについては、学年の区分を設けない課程に在籍する生徒の出場は、同一競技２回限りとする。

ウ　学年の区分を設けてある課程に在籍する生徒の出場は、２学年までとする。

(11) 脳震盪について、選手および指導者は下記の事項を遵守すること。

ア　大会１ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。

イ　大会中､脳震盪を受傷した者は､継続して当該大会に出場することは不可とする。なお、至急、専門医（脳神経外科）の精査を受けること。

ウ　練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。

エ　当該選手の指導者は、大会事務局及び（公財）全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。

(12) 皮膚真菌症（トンズランス感染症）については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。

13　参加制限　（１）男子団体試合は、各ブロックの高体連予選または推薦により、中部ブロック１０校・南部ブロック６校・北部ブロック６校・筑豊ブロック２校とする。

（２）女子団体試合は、各ブロックの高体連予選または推薦により、中部ブロック６校・南部ブロック４校・北部ブロック４校・筑豊ブロック２校とする。

（３）男子個人試合は、各ブロックの高体連予選または推薦により、中部ブロック８名・南部ブロック６名・北部ブロック６名・筑豊ブロック４名とする。

（４）女子個人試合は、各ブロックの高体連予選または推薦により、中部ブロック６名・南部ブロック４名・北部ブロック４名・筑豊ブロック２名とする。

（５）男子団体試合のチーム編成は監督１名・選手６名の７名とする。ただし、選手は３名から５名でも良い。なお、３名もしくは４名の場合は、後ろ詰め（先鋒・次鋒、もしくは先鋒を空ける。）とする。

（６）女子団体試合のチーム編成は監督１名・選手３名・補欠２名の６名とする。ただし、選手は２名でも良い。なお、２名の場合は、後ろ詰め（先鋒を空ける。）とする。体重区分は次のとおりとする。先鋒５２㎏以下、中堅６３㎏以下、大将無差別。なお、体重の軽い者は重い階級に出場できる。また、補欠は該当する階級に出場できる。参加申し込み後の選手変更は２名を限度とする。

＊女子団体試合において、補欠に５２㎏以下の選手登録していない状態で、先鋒（５２㎏以下）を抹消する場合、及び補欠に６３㎏以下の選手を登録していない状態で、中堅（６３㎏以下）を抹消する場合は、新たに登録する選手を直接、先鋒あ

るいは中堅に入れることができる。

＊女子団体試合において、試合当日、両チームとも２名での対戦となった場合は、配列をそのままの順序で後ろに詰める（先鋒をあける）。なお、２名同士の対戦後、勝ち上がった場合、次の試合の配列はエントリー通りの配列とする。

（７）男子個人試合は、次の５階級に分けて試合を行う。

①６０kg級　②６６kg級　③７３kg級　④８１kg級　⑤無差別級

（８）女子個人試合は、次の５階級に分けて試合を行う。

①４８kg級　②５２kg級　③５７kg級　④６３kg級　⑤無差別級

＊女子は以下の階級に登録できる。

☆団体・先鋒（５２kg以下に登録した場合）

個人は、４８kg級・５２kg級・無差別級のいずれかに登録できる。

☆団体・中堅（６３kg以下に登録した場合）

個人は、全ての階級ならびに無差別のいずれかに登録できる。

（９）男女団体試合の外国人のチーム人員は１名以内とする。個人試合は参加制限を設けない。

14　参加申込

（１）高体連の参加申込みに記載される生徒個人情報について

上記取り扱いについては、高体連 HP「個人情報及び肖像権に係る取り扱いについて」に記載のとおりとする

（２）令和８年１月２０日（火）に各ブロック専門委員長がまとめて、福岡県柔道協会へ提出する。

15　参加負担金　　団体　１チーム　５，０００円　　個人　１人　１，５００円

16　表　　彰　　団体・個人ともベスト４まで表彰を行う。

（団体戦、女子個人戦無差別級は３位決定戦を行う）

17　取得制限　　男女団体試合優勝校・準優勝校、男女各階級優勝者と女子無差別級２位は第 48 回全国高等学校柔道選手権大会への出場権を得る。

於：日本武道館　　令和８年３月２７日（金）　男女個人試合

３月２８日（土）　男女団体試合

18　その他

試合の組合せは、専門委員会で抽選し決定する。

19　問合せ先　　福岡県立若松高等学校　　稲又　隆洋　　℡０９３－７５１－１９１１